

皆さま、こんにちは。

カトリック府中教会、アンドレアです。

毎年、枝の主日にイエスとともにエルサレムに上り、イエスとともに十字架に向けた道を歩むわたしたちは、あらためて感動を覚えます。

イエスは、人々と同じ過越祭に向けて歩みます。過越祭は、エジプトからの解放の記念であり、決定的な解放への希望を表すしるしです。イエスは知っておられました。ご自分を待ち受けているのは新しい過越であることを。十字架上で自らをささげることによって、イエスご自身がいけにえの小羊の代わりとなることを。イエスは知っておられました。パンとぶどう酒をささげる神秘によって、ご自分に属する人々に永遠にご自身をささげ、彼らに新しい自由への道に向かう扉を開くのだということ。新しい自由とは、生ける神との交わりです。イエスは十字架の山に向けて歩みました。ご自身を与える愛の時に歩きました。イエスの巡礼が最後に目指す目的地は、神ご自身のおられるところです。イエスは人類をこのところに上げようと望まれたのです。

それゆえ、今日の枝の主日の典礼は、ある深い現実を象徴的に表しています。わたしたちがイエスとともに歩み始めたことを表そうとしています。この歩みは、生ける神へと向かう山道を通ります。重要なのは、この上るのです。イエスがわたしたちを招くのは、このような歩みです。しかし、わたしたちはどのようにしてこの上り道を歩むことができるのでしょうか。それはわたしたちの力を超えたことではないのでしょうか。ですから、次のことはもっと重要だと思います。わたしたちは、神から愛され、またイエスの十字架と復活によって、神様のところに引き寄せられます。

